

特集「製造，物流」の発刊によせて

長 島 毅

日本ユニシスおよびその関連会社のシステム技術部門が、その活動報告を論文集「ユニシス技報」として出版し、その成果を世に問うようになってから、既に四半世紀の歴史を積み重ね、発刊号数も、本号で92号を数えるまでになった。

発刊初期の頃は、コンピュータサイエンス理論や、ハードウェア・基本ソフトウェア解説に軸足を置いていた論文内容も、情報技術のコモディティ化を反映し、時代と共に高度化する顧客ソリューションの構築を題材にした、より実践的な内容へと移り変わって久しい。

その中で、私達は、お客さま企業の業務ソリューション構築の責任を担う実担当者が、その経験と知見を元に、解決すべき課題の本質を整理し、採用した構築方策の特徴や成果を明らかにすることにより、

本技報の主要読者層として想定する、お客さま企業の経営企画部門や情報システム部門の皆様には、課題の解決への手掛かりを提示させていただく、

また、もう一つの主要読者層と想定している、情報技術関連の大学や研究機関の皆様には、実務適用上の課題を提供することにより、学術研究成果の実用度の向上に寄与させていただく、

という2点をユニシス技報の存在価値と認識し、今後とも継続的に編集に携わっていきたいと考える。読者の皆様の、いっそうのご理解とご鞭撻をお願いする次第である。

さて本号は、特集「製造，物流」と題して、製造，物流業界の顧客ソリューション構築における最近のビジネス環境、技術的なトレンド、その中での特徴的な構築事例などについて、ご紹介させていただく。

まず基調論文「製造，物流分野におけるシステム再構築の傾向と課題」において、景気回復に伴い拡大傾向にあるこのITマーケットにおける最近の情報化投資案件の共通傾向として、

個別業務システムのデータベース一元化による統合とデータの活用

内部統制強化という社会的要請をうけた、承認過程を含むワークフローの明示化

業務プロセスの標準化を伴う、ソリューション製品をベースとした再構築

をあげ、後に続く個別テーマ論文の位置づけを明確化する。

次に、論文「制度変化がもたらす原価計算の重要性とERPの効用」では、会計制度の変化や内部統制の強化などの環境下で、会計システムを再構築する場合に一層の厳密さを要求されるようになった原価管理の仕組みを分析し、これに対する解としてのERPパッケージ適用の有効性について論ずる。また、「サービス・パーツ最適在庫計画システム(Servigistics)におけるサービス・レベル設定の考え方」では、補修用部品の在庫コストと顧客の満足度という相反する評価尺度をバランスさせ、最適な部品在庫レベルを決定するソリューション「Servigis-

2(2)

tics」の適用に際して重要な意味合いを持つ、サービス・レベルの設定に関する解説を行う。論文「製造業向け基幹システム再構築事例　ERPソリューション MACS.Eagle 適用事例」では、従来化学品メーカーは連続生産プロセスであるため、適用が難しいといわれてきた生産管理パッケージを、入念な適合度調査と適切なカスタマイゼーションの組合せで適用し、短期間・低コストのシステム化を実現した事例を紹介する。お客様システム構築事例「低温物流システムの再構築事例　株式会社ニチレイの開発事例」では、ニチレイ様のご協力を得て、該社基幹システム再構築の事例をシステム統合案件の典型例として、ご紹介させていただく。論文「物流情報系システムに求められる分析シナリオとは」では、これまで構築事例の少ない物流業向けの情報系システム構築事例において、在庫過多の原因発見と偏在化の理由把握を目的にした分析機能の設計において採用した分析シナリオに関して報告する。

関連する業界で、類似の問題意識をお持ちのお客様、あるいは関連技術領域にご興味のある研究者の皆様に、ご参考にお読み頂ければ幸いです。

(ユニシス技報 編集委員会委員長，
USOL ホールディングス(株) 常務取締役)